

事業の進化と価値創造の歴史

創業以来培ってきたゴム・樹脂分野における独自の技術力を活かしたモノづくりを通じて、時代のニーズに応え、世界に新しい価値を提供しています。

設立～1970年代

豊田喜一郎氏のDNAを継承しゴム・樹脂部品を開発

1930年代後半、豊田自動織機製作所の自動車部内に、ゴム部品の重要性を感じていた豊田喜一郎氏がゴム研究部門を設置しました。それが豊田合成(以下当社)のルーツとなりました。喜一郎氏は後にトヨタ自動車を創業します。喜一郎氏の研究への情熱は、1949年に設立された名古屋ゴム株式会社へと引き継がれました。

1950年代、名古屋ゴムは自動車用ゴム部品の開発・生産に力を注ぎ、自動車用の油圧ブレーキホース製造で国内初のJIS認定工場となりました。また従来は硬質ゴム製であったハ

ンドルの樹脂化に挑戦。1954年には射出成形加工による樹脂製ハンドルがFA型トラックで採用となり、続いてトヨペット・クラウンにも同工法による樹脂製ハンドルが搭載されました。

1960年代以降、国内自動車産業の発展とともに、名古屋ゴムは事業を拡大。1967年には射出成形による樹脂部品を生産する稲沢工場を新設、その後も尾張エリアを中心に生産拠点を拡充。1973年には現在の豊田合成株式会社に社名変更をしました。

1980年代～2000年代

研究・開発に尽力しグローバル企業へと成長

トヨタグループの一員として、当社が開発・生産する自動車用のゴム・樹脂部品は1980年代以降さらに多分野へと広がりました。

当社は高分子メーカーとして開発型の企業を目指し、1995年には北島技術センター、2009年には美和技術センターを設立し、開発力を強化してきました。

また、異業種分野にも目を向け、自動車部品事業で培われ

た薄膜形成技術に基づき、1986年からは開発が困難とされていた青色LEDの研究に挑戦し、1995年に量産化を達成しました。

一方、1980年代末まで海外市場では台湾、北米の4社体制でしたが1990年代に海外進出を加速。北米、アジアに続き、豪州、欧州、中南米、アフリカにも展開し、今では海外62社へと拡大しグローバル企業へと成長しています。

1949	1950	1953	1954	1961	1974	1977	1982	1982	1989	1997	1998	2003	2008
ゴム・樹脂分野の知見	ウェザーストリップ	ブレーキホース	樹脂射出ハンドル	ピストンカップ	1974 インストルメントパネル	1977 等速ジョイントブーツ	1982 遮音性ガラスラン	1982 樹脂フューエルフィルターキャップ	1989 運転席用エアバッグ	1997 ゴムリサイクル技術	1998 カーテンエアバッグ	2003 ミリ波レーダ対応エンブレム	2008 樹脂フューエルフィルターパイプ

新規事業開発の経験



豊田自動織機製作所 ゴム研究部門

樹脂射出ハンドルへの挑戦

1952年、主要顧客であるトヨタ自動車工業の提言を受け、当社は米国ワットソン・スチルマン社製48オンズ射出成形機を導入。トヨタ自動車工業からの資金援助を得てもなお過大な投資となる射出成形の導入を危ぶむ声もある中、社運をかけて取り組み、設備の稼働に成功。「自動車部品の樹脂化時代」の幕開けとなった。



射出成型機



1986
青色LEDの研究開始

エアバッグ開発への挑戦

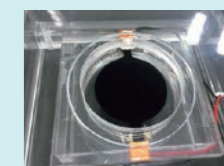
国内エアバッグでトップシェアを誇る豊田合成。ハンドルを製造している流れでエアバッグを手掛けるようになった、と思われがちだが、実際にはトヨタ自動車初のエアバッグという新たな商標をめぐる、「いち早くエアバッグを開発すべきだ!」という危機感から、熾烈な開発競争に果敢にチャレンジした結果である。



1991
青色LED開発の成功認定

世界初! 青色LEDの開発

優れた省エネ性能により環境にやさしい光源として応用分野が広がるLED。LED製品の実現を可能にしたのが、1990年代の青色LEDの実用化である。1986年、豊田合成は名古屋大学工学部の赤崎勇教授の指導と豊田中央研究所の協力を受けて、窒化ガリウム(GaN)をベースとした青色LEDの開発に着手、1991年に成功認定を受けた。不可能とされた青色LEDの開発。世界初となる挑戦は不安と苦勞の連続だった。



2007
e-Rubberの研究開始

グローバルネットワーク



1949
トヨタ自動車工業のゴム部門を母体に「名古屋ゴム(株)」設立

1957
春日工場稼働

1967
稲沢工場稼働

1973
「豊田合成(株)」に改称

1976
森町工場稼働

1977
米国事務所設立(イリノイ州)



1980
本社を現所在地(愛知県清須市)に移転

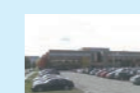
1982
尾西工場稼働



1989
TGミズーリ(株)設立



1995
北島技術センター設立



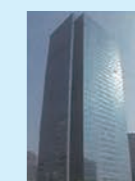
1999
豊田合成ノースアメリカ(株)設立



2000
豊田合成ヨーロッパ(株)設立



2001
豊田合成アジア(株)設立



2006
豊田合成(上海)管理(有)設立



2008
豊田合成ミンダインディア(株)設立



2009
美和技術センター設立

事業の進化と価値創造の歴史 と 私たちの競争優位性

2010年代～未来

安心・安全、快適、脱炭素を軸に未来へ貢献

2010年代になると、地球温暖化対策、持続可能な社会の実現など、企業が抱える新たな課題も生まれました。自動車市場ではBEV(電気自動車)など石油燃料に頼らないクルマが将来の主役になると予想され、大きな変革を迫られています。

当社では高分子技術を活用し、FCEV(燃料電池自動車)用の高圧水素タンクを開発。2020年に量産が始まったトヨタ自動車の2代目MIRAIにはトヨタ自動車と共同開発した同タンクが採用されています。またBEV化への対応として、車両構造の変化に対応したエアバッグ・シートベルトの最適提案によ

り、交通死亡事故の低減に貢献するほか、高分子の技術でクルマのデザインやつくりを刷新し、新しいモビリティを実現していきます。さらに、高分子材料の知見を活かして高機能材料の開発やリサイクルを推進し、自社内だけでなく、開発した材料・技術の社外販売など事業化を通じて、脱炭素・循環型社会実現への貢献を目指します。

当社は今後も高分子技術を活用し、「安心・安全」「快適」「脱炭素」の3領域を軸に社会に価値を提供し続けていきます。

2010

ゴム・樹脂分野の知見



2010 軽量オープニングトリム ウェザーストリップ



2017 大型ラジエタグリル



2019 樹脂ターボダクト/バッテリーケース



2020 超大型スピンドルグリル



2021 斜突対応の運転席エアバッグ/歩行者保護エアバッグ



2020 高圧水素タンク



2022 CNF強化プラスチック



2023 小型ワイヤレス充電ホルダ



2023 発光機能つきミリ波エンブレム

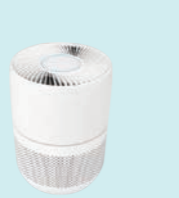
新規事業開発の経験



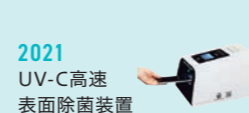
2010 GaNパワー半導体の研究開始



2019 e-Rubberを用いた心臓手術シミュレータ「Super BEAT」をEBM社と開発



2020 UV-C(深紫外線)LEDを用いたUV-C空間除菌装置を販売開始
新型コロナウイルス不活化に対するUV-C(深紫外線)LEDの高い有効性を確認



2021 UV-C高速表面除菌装置

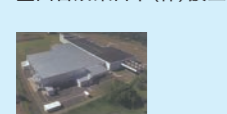


2021 スマートインソール

2022 次世代パワー半導体向け「GaN基板の大口径化」に成功

グローバルネットワーク

2013 豊田合成東日本(株)設立



2013 GDBRインダストリアル コメルシオ(有)設立



2014 豊田合成 イラプアトメキシコ(株)設立



2018 (株)豊田合成 インドネシア設立



2019 湖北豊田合成 正奥橡塑密封科技(有)設立



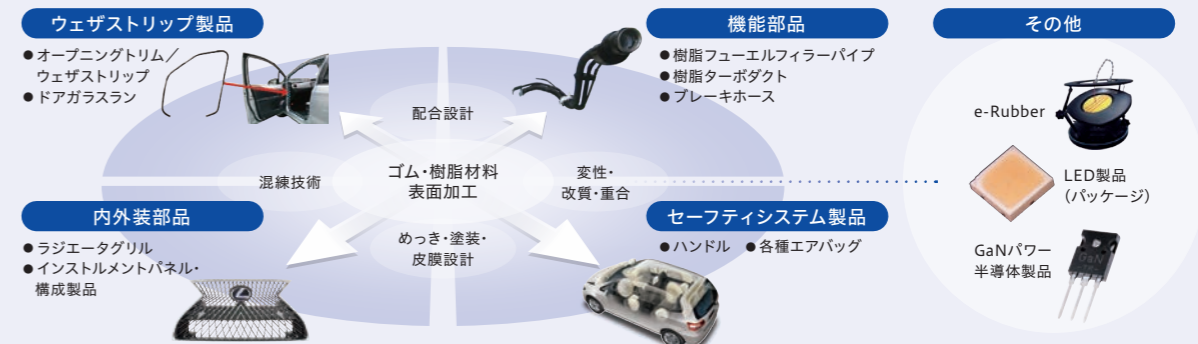
2020 いなべ工場稼働

私たちの競争優位性

ゴム・樹脂分野の知見

製品に優位性をもたらす「材料」「工法技術」「金型技術」

当社の源流であるトヨタ自動車創業者の豊田喜一郎氏が設立したゴム研究部門から脈々と続く基礎研究の基盤を活かして、お客様や時代のニーズに先回りした材料・工法を創造し、競争優位性を高めています。



新規事業開発の経験

革新的な製品

当社の社是である「限らない創造 社会への奉仕」のもと、約70年の歴史の中で安全・環境など時代のニーズをいち早く捉え製品開発に成功してきた幾つもの経験が、TG Spritに掲げている「チャレンジ」精神の基盤となっています。先人から受け継がれてきたマインドを大切に、社会課題への挑戦をととして企業のさらなる進化を続けていきます。



グローバルネットワーク

16カ国/地域・グループ62社によるネットワークを活かしたバリューチェーン

世界戦略車(グローバルカー)の参入をきっかけに、約20年で40社以上のグループ会社を設立。グローバルネットワークを活かし、お客様のニーズや政情に鑑みた最適な生産体制で確かな技術と品質をタイムリーにお届けします。

